

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年11月14日

【四半期会計期間】 第60期第2四半期(自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日)

【会社名】 株式会社ヤマウラ

【英訳名】 YAMAURA CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山 浦 速 夫

【本店の所在の場所】 長野県駒ヶ根市北町22番1号

【電話番号】 (0265)81 5555(代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 中 島 光 孝

【最寄りの連絡場所】 長野県駒ヶ根市北町22番1号

【電話番号】 (0265)81 6070(代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 中 島 光 孝

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次		第60期 第2四半期連結 累計期間	第59期
会計期間		自 平成30年 4月1日 至 平成30年 9月30日	自 平成29年 10月1日 至 平成30年 3月31日
売上高	(千円)	14,893,444	14,135,528
経常利益	(千円)	1,433,526	1,265,148
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	959,053	829,411
四半期包括利益又は 包括利益	(千円)	728,215	1,059,991
純資産額	(千円)	13,835,273	13,787,818
総資産額	(千円)	23,498,551	21,970,984
1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	51.96	43.82
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)		
自己資本比率	(%)	58.9	62.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	2,608,967	1,027,316
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	226,238	401,093
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	45,705	47,318
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	3,979,083	1,642,059

回次		第60期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自 平成30年 7月1日 至 平成30年 9月30日
1株当たり四半期純利益 金額	(円)	28.68

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第60期第2四半期連結累計期間の1株当たり四半期(当期)純利益の算定上の基礎となる自己株式数には、野村信託銀行(株)(株)ヤマウラ従業員持株会専用信託口が所有する当社株式数を含めております。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。
- 5 第59期は、決算期の変更により平成29年10月1日から平成30年3月31日までの6ヶ月間となっております。
- 6 第59期は、決算期変更により第2四半期連結財務諸表を作成しておりません。これに伴い、前第2四半期連結累計期間及び前第2四半期連結会計期間の主要な経営指標等の推移については記載していません。
- 7 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結累計期間の末日において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当社は平成30年3月期より決算期を9月から3月に変更しております。これに伴い、平成31年3月期第2四半期(平成30年4月1日から平成30年9月30日)に対応する前年同四半期連結累計期間がないため、対前期増減については記載しておりません。

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、海外においては、欧州経済では、製造業の景気拡大ペースは弱含み、在庫に過剰感が高まっており、欧州中央銀行は当面の金融政策の枠組みを据え置いている。また、米国経済では、内需主導の堅調な拡大が継続されており、企業業績ならびに雇用情勢も安定が続いていることならびにインフレ率2%近辺が維持されていることを背景に、連邦準備制度理事会は政策金利の9月での利上げが実施されている。しかしながら、中間選挙を睨み、米国保護主義を背景とした輸入関税等による貿易戦争ともいわれる通商政策リスクに加え、イラン制裁問題を含む原油価格の推移、緩やかな景気減速を示している中国経済や新興国金融市場の動向等での不確定要因も勘案すると、先行き不透明な状況は変わりません。

また、国内経済は、政府の経済政策の継続と一部見直し機運のある5年前からの異次元金融政策の継続が表明され、直前の日銀短観では、大企業製造業にて、原材料価格の上昇に加え、自然災害による物流寸断や生産減少にて、業況判断指数が3四半期連続で悪化し、大企業非製造業も、個人サービスや宿泊・飲食など、一部業種が悪化している。一方、先行きについては、米国を発端とする貿易戦争が慎重な見方が増えている状況です。

当社グループが中核事業としている建設業界におきましては、日銀松本支店の長野県下の金融経済動向によると、長野県経済は、緩やかに拡大しており、設備投資は増加、個人消費は底堅く推移している。企業の業況感は良好な水準を維持しているとのこと。当地区においても、一部企業を中心に設備投資に前向きな動きはみられるものの、工事価格や工事期間等、厳しい受注環境が一層続いております。

このような環境のもと、利益面においては、販売費及び一般管理費一層の削減に引き続き努めながら、BIMを駆使しつつ、IEを主としたKAIZEN活動の全社展開や仮設資材等の軽量化・省力化による工数削減等にての原価削減に一層取り組んだ結果、受注高、売上、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益についても、厳しい環境ではありますが、業況は堅調に推移しております。

このような環境下にあつて、当社グループの当第2四半期連結累計期間における連結売上高は14,893百万円となりました。

損益面につきましては、営業利益1,351百万円、経常利益1,433百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は959百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

(建設事業)

建設事業につきましては、医療介護・マンション・流通・食品関連・水力発電設備及び道路・河川建設工事など公共工事等の受注に注力いたしました。

また、顧客ニーズに対応するべく開発したハイグレードな自由設計住宅ファミレを始めとする住宅等の受注に注力いたしました。

その結果、完成工事高11,495百万円、営業利益は1,189百万円となりました。

(エンジニアリング事業)

エンジニアリング事業につきましては、創業時よりのモノづくりの系譜を背景とした事業ですが、設備投資も実施しつつ、ダム関連工事、合成床版、大型精密製缶工事、水力発電設備工事等に注力いたしました。

その結果、完成工事高705百万円、営業損失は8百万円となりました。

(開発事業等)

開発事業等につきましては、永年培ったノウハウを基に、首都圏等でのマンション分譲事業やリノベーション事業等に注力いたしました。

その結果、開発事業等売上高2,706百万円、営業利益は244百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の総資産につきましては、23,498百万円となりました。負債につきましては9,663百万円となりました。また、純資産につきましては、13,835百万円となりました。これらにより当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は58.9%となっております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ23億37百万円増加し、39億79百万円になりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と、それらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は26億8百万円となりました。主な要因は、未成工事支出金の増加8億7百万円、その他たな卸資産の増加4億53百万円などによるキャッシュ・フローの減少の一方、税金等調整前四半期純利益に加え、売上債権の減少17億66百万円や仕入債務の増加6億19百万円などによるキャッシュ・フローの増加によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により減少した資金は2億26百万円となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出1億39百万円、無形固定資産の取得による支出85百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により減少した資金は45百万円となりました。主な要因は、短期借入による収入14億円、短期借入返済による支出14億円、自己株式の取得による支出6億99百万円等によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は3百万円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結累計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	82,000,000
計	82,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,103,514	21,103,514	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は、100株であります。
計	21,103,514	21,103,514		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年7月1日～ 平成30年9月30日		21,103,514		2,888,492		1,995,602

(5) 【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を 除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
(株)信州エンタープライズ	長野県駒ヶ根市北町20番6号	3,841	20.30
ヤマウラ従業員持株会	長野県駒ヶ根市北町22番1号	2,098	11.09
野村信託銀行(株)(ヤマウラ従業員持株会専用信託口)	東京都千代田区大手町2丁目2番2号	706	3.73
(株)八十二銀行	長野県長野市大字中御所字岡田178番地	668	3.53
山浦玲子	長野県駒ヶ根市	561	2.96
アルプス中央信用金庫	長野県伊那市大字伊那3438番地1	500	2.64
(株)長野銀行	長野県松本市渚2丁目9番38号	444	2.35
綿半ホールディングス(株)	東京都新宿区四谷1丁目4番地	429	2.27
山浦速夫	長野県駒ヶ根市	359	1.90
山浦康民	長野県駒ヶ根市	358	1.90
計		9,967	52.66

(注) 上記のほか当社所有の自己株式2,176千株あります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,176,100		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,924,100	189,241	同上
単元未満株式	普通株式 3,314		同上
発行済株式総数	21,103,514		
総株主の議決権		189,241	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄には証券保管振替機構名義の株式が4,600株(議決権46個)含まれておりません。

2 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式が54株含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ヤマウラ	長野県駒ヶ根市北町 22 1	2,176,100		2,176,100	10.31
計		2,176,100		2,176,100	10.31

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。
- (2) 当社は、平成29年12月20日開催の第58期定時株主総会において、定款の一部変更を決議し、決算期を9月30日から3月31日に変更いたしました。これに伴い、前連結会計年度は平成29年10月1日から平成30年3月31日までの6ヶ月決算となっており、前第2四半期連結財務諸表を作成していないため、前第2四半期連結累計期間の記載はしていません。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、誠栄監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	1,652,195	3,989,221
受取手形・完成工事未収入金等	1 5,533,253	1 3,767,228
販売用不動産	2,476,901	2,497,904
未成工事支出金	841,067	1,648,993
開発事業等支出金	3,467,871	3,922,172
材料貯蔵品	30,547	29,479
未収入金	1,314,836	1,132,692
その他	345,481	88,310
貸倒引当金	24,139	35
流動資産合計	15,638,017	17,075,966
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物（純額）	1,832,385	1,765,810
土地	1,240,599	1,241,344
その他（純額）	787,767	819,008
有形固定資産合計	3,860,752	3,826,163
無形固定資産	243,881	374,907
投資その他の資産		
その他	2,258,077	2,251,257
貸倒引当金	29,744	29,744
投資その他の資産合計	2,228,333	2,221,513
固定資産合計	6,332,967	6,422,585
資産合計	21,970,984	23,498,551
負債の部		
流動負債		
工事未払金等	3,634,944	4,336,543
未払法人税等	237,362	480,831
未成工事受入金	2,428,082	2,527,957
賞与引当金	170,000	233,000
完成工事補償引当金	72,511	56,050
工事損失引当金	28,280	41,991
株主優待引当金	128,209	66,509
その他	751,301	661,943
流動負債合計	7,450,692	8,404,825
固定負債		
長期未払金	125,855	125,855
長期借入金		636,030
繰延税金負債	384,364	280,666
資産除去債務	131,345	131,839
その他	90,907	84,060
固定負債合計	732,472	1,258,452
負債合計	8,183,165	9,663,278

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,888,492	2,888,492
資本剰余金	1,995,602	1,995,602
利益剰余金	8,778,199	9,689,934
自己株式	830,978	1,464,419
株主資本合計	12,831,315	13,109,609
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	923,891	698,642
退職給付に係る調整累計額	32,610	27,021
その他の包括利益累計額合計	956,502	725,663
純資産合計	13,787,818	13,835,273
負債純資産合計	21,970,984	23,498,551

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	
完成工事高	12,200,638
開発事業等売上高	2,692,806
売上高合計	14,893,444
売上原価	
完成工事原価	9,990,235
開発事業等売上原価	2,334,753
売上原価合計	12,324,988
売上総利益	
完成工事総利益	2,210,402
開発事業等総利益	358,053
売上総利益合計	2,568,456
販売費及び一般管理費	1,216,820
営業利益	1,351,635
営業外収益	
受取利息	43,151
受取配当金	17,636
受取手数料	7,316
受取保険金	20,510
その他	1,197
営業外収益合計	89,811
営業外費用	
支払利息	7,920
その他	0
営業外費用合計	7,920
経常利益	1,433,526
特別利益	
固定資産売却益	265
特別利益合計	265
特別損失	
固定資産除却損	377
特別損失合計	377
税金等調整前四半期純利益	1,433,415
法人税、住民税及び事業税	474,361
四半期純利益	959,053
非支配株主に帰属する四半期純利益	
親会社株主に帰属する四半期純利益	959,053

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	959,053
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	225,249
退職給付に係る調整額	5,589
その他の包括利益合計	230,838
四半期包括利益	728,215
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	728,215
非支配株主に係る四半期包括利益	

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)	
当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	1,433,415
減価償却費	181,928
引当金の増減額（は減少）	25,554
退職給付に係る資産の増減額（は増加）	7,313
受取利息及び受取配当金	60,788
支払利息	7,920
固定資産売却損益（は益）	265
固定資産除却損	377
売上債権の増減額（は増加）	1,766,024
未成工事支出金の増減額（は増加）	807,926
販売用不動産の増減額（は増加）	21,003
その他のたな卸資産の増減額（は増加）	453,233
仕入債務の増減額（は減少）	619,509
未成工事受入金の増減額（は減少）	99,875
未払消費税等の増減額（は減少）	217,893
営業貸付金の増減額（は増加）	244
未収入金の増減額（は増加）	182,144
その他	67,996
小計	2,765,457
利息及び配当金の受取額	60,788
利息の支払額	7,920
法人税等の支払額	209,358
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,608,967
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	139,958
有形固定資産の売却による収入	500
無形固定資産の取得による支出	85,960
投資有価証券の取得による支出	820
投資活動によるキャッシュ・フロー	226,238
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	1,400,000
短期借入金の返済による支出	1,400,000
長期借入れによる収入	700,000
長期借入金の返済による支出	63,970
配当金の支払額	47,318
自己株式の売却による収入	65,523
自己株式の取得による支出	699,940
財務活動によるキャッシュ・フロー	45,705
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,337,024
現金及び現金同等物の期首残高	1,642,059
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 3,979,083

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第2四半期連結会計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
1 税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-Ship))

当社は、平成30年6月4日開催の取締役会において、当社従業員に対する当社の中長期的な企業価値向上へのインセンティブの付与を目的として、「信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-Ship)」(以下、「本プラン」といいます。)の導入を決議いたしました。

(1) 取引の概要

本プランは、「株式会社ヤマウラ従業員持株会」(以下「持株会」といいます。)に加入するすべての従業員を対象とするインセンティブ・プランです。本プランでは、当社が信託銀行に「株式会社ヤマウラ従業員持株会専用信託」(以下、「従持信託」といいます。)を設定し、従持信託は、今後7年間にわたり持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を予め取得します。その後は、従持信託から持株会に対して継続的に当社株式の売却が行われるとともに、信託終了時点で従持信託内に株式売却益相当額が累積した場合には、当該株式売却益相当額が残余財産として受益者適格要件を満たす者に分配されます。なお、当社は、従持信託が当社株式を取得するための借入に対し保証することになるため、当社株価の下落により従持信託内に株式売却損相当額が累積し、信託終了時点において従持信託内に当該株式売却損相当の借入金残債がある場合は、保証契約に基づき、当社が当該残債を弁済することになります。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。

当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、当第2四半期連結会計期間末633,441千円、706,800株であります。

(3) 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額は、当第2四半期連結会計期間末636,030千円であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期末日満期手形の会計処理については、当第2四半期連結会計期間末の末日(平成30年9月30日)は金融機関の休日でありましたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。四半期末日満期手形の金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形	5,773千円	47,018千円

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
従業員給料手当	319,764千円
賞与引当金繰入額	131,974千円

- 2 当社グループの売上高は、通常の営業形態として、第2四半期連結会計期間と第4四半期連結会計期間に完成する工事の割合が大きいため、各四半期連結会計期間の業績に季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)	
現金及び預金	3,989,221千円
預入期間が3か月を超える定期預金	10,137千円
現金及び現金同等物	3,979,083千円

(株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

1 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	47,318	2.5	平成30年3月31日	平成30年6月29日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年11月14日 取締役会	普通株式	47,318	2.5	平成30年3月31日	平成30年12月18日	利益剰余金

(注) 本決議による「配当金総額」には、この配当の基準日である平成30年9月30日現在で「株式会社ヤマウラ従業員持株会専用信託」が所有する当社株式(自己株式)706,800株に対する配当金を含んでおります。

2 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	建設事業	エンジニア リング事業	開発事業等	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,495,192	705,445	2,692,806	14,893,444		14,893,444
セグメント間の内部 売上高又は振替高			14,156	14,156	14,156	
計	11,495,192	705,445	2,706,962	14,907,601	14,156	14,893,444
セグメント利益又は損失()	1,189,979	8,087	244,155	1,426,048	74,412	1,351,635

(注) 1. セグメント利益の調整額 74,412千円には、セグメント間取引消去4,867千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 79,279千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書上の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
1株当たり四半期純利益	51.96円
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	959,053
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	959,053
普通株式の期中平均株式数(株)	18,457,289

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-Ship®)によって設定される従持信託が所有する当社株式については、四半期連結財務諸表において自己株式として認識しているため、当第2四半期連結累計期間の「普通株式の期中平均株式数」は、当該株式数を控除して算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第60期(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)中間配当については、平成30年11月14日開催の取締役会において、平成30年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	47,318千円
1株当たりの金額	2円50銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成30年12月18日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月14日

株式会社ヤマウラ
取締役会 御中

誠栄監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 渡 辺 章 宏 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 荒 川 紳 示 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヤマウラの平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ヤマウラ及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。